



- < 平成 22 年度から 27 年度までに成果の上った活動 >
- 持続的な黒松内農業の確立 . . . 1
 - にんじんの品質向上に向けた京極型輪作体系の提案と実践 . . . 2
 - ルスツ高原から「ゆとり」ある力強い農業の発信 . . . 3
 - 広域農業青年組織に対する自主性を尊重した継続支援 . . . 4

「持続的な黒松内農業の確立」

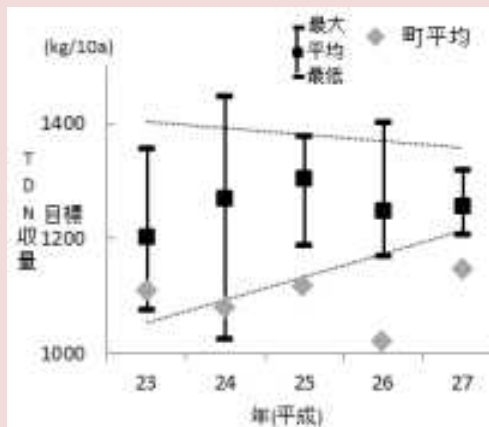
担当：旧南後志支所地域係

黒松内町は畜産経営が基幹です。酪農経営は生産性の向上、コストの削減が求められていました。そこで普及センターは、個体乳量の増加と飼料費の低減を図るため以下の提案を行いました。

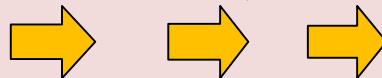
サイレージ用とうもろこしの収量確保と品質向上



天候不順や適期収穫に適した品種選定、生育量確保に向けた除草法の改善を提案しました。
は種床の土塊程度が欠株率や収量に影響することが明らかになり、は種作業改善の重要性を訴えました。



サイレージ用とうもろこし TDN 収量の経過 (4戸の最大、最小、平均)

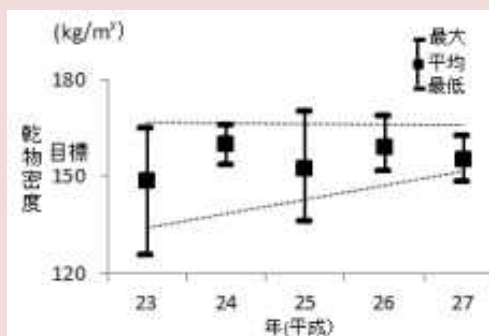


ていねいに碎土・整地したら、乾燥に耐えて発芽したよ。段取りが大変だけど、来年もきちんと準備しては種床つくるよ。

グラスサイレージの品質向上



品質調査と現地巡回を通じて踏圧の重要性をはたらきかけました。生産組合のオペレータと競合して踏圧できない農家には、オペレータの複数制を生産組合に提案しました。



グラスサイレージ乾物密度の経過 (4戸の最大、最小、平均、H27のみ3戸)



踏圧してグラスサイレージが良くなったら、牛の採食量も増えたよ。来年も品質調査たのむね！

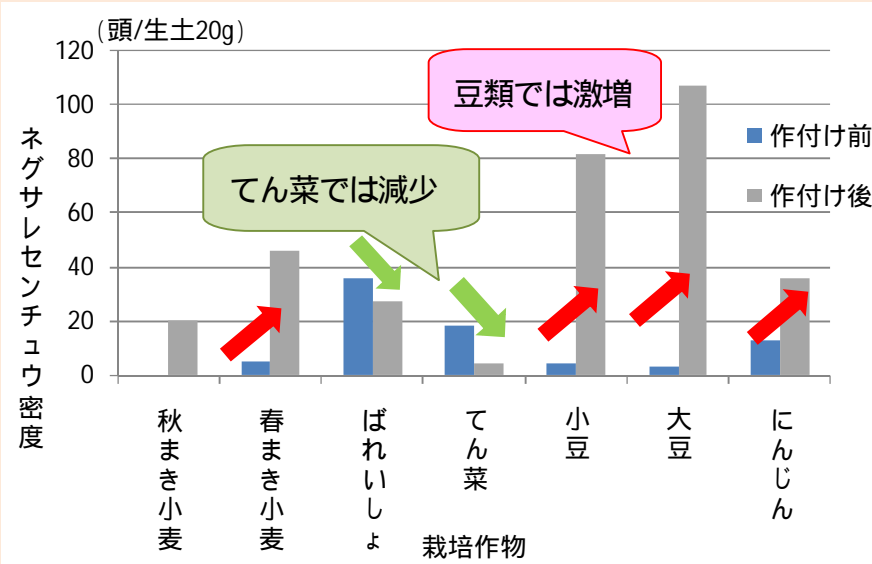
これらの活動の結果、サイレージ用とうもろこしの TDN 収量が増加し、グラスサイレージの品質も向上したことで乳量が増加し、乳飼比は減少しつつあります。また、飼料費のコスト低減につながりました。

「にんじんの品質向上に向けた京極型輪作体系の提案と実践」

担当：本所 地域第一係

京極町は、畑作を主体に露地野菜を導入している経営体が多い町です。畑作物以外ではにんじんの作付けが多く、キタネグサレセンチュウ等による品質低下が課題でした。そこで、栽培実態を踏まえ、にんじんの品質向上に向けた取り組みを地域農業者と共に実践しました。

作物により作付前後で線虫密度が異なることを確認！



農薬防除と併せて耕種的防除(対抗緑肥、輪作など)について検討



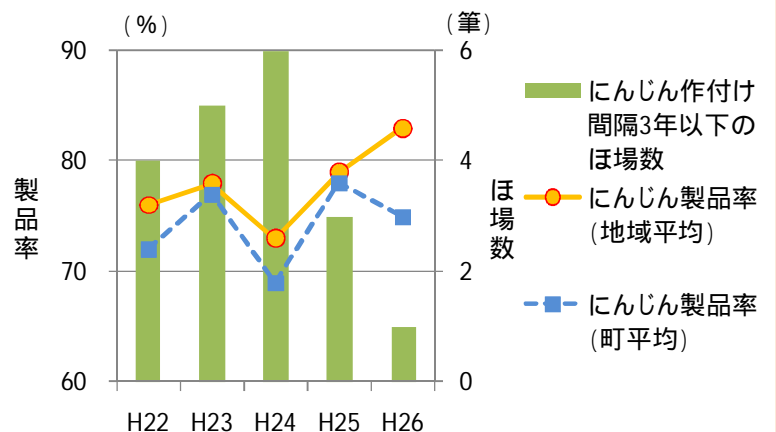
ばれいしょは殺線虫剤を使用しているほ場があるため、参考値

輪作体系改善による線虫密度の低減、維持を提案

作物名	てんさい	ばれいしょ	秋小麦 + 野生種えん麦	豆類	ばれいしょ	秋小麦 + 野生種えん麦	にんじん
モデル①							
キタネグサレセンチュウ増減	減少	微増	減少	激増	微増	減少	増
モデル②							
キタネグサレセンチュウ増減	減少	微増	減少	減少	微増	減少	増
モデル③							
キタネグサレセンチュウ増減	減少	増	減少	激増	微増	減少	増

輪作体系の改善で製品率向上

輪作体系を見直すことで、にんじんの製品率が上がりました。
B品、規格外品の処分費用低減、機上選別の時間短縮など、収量UP以外にも好影響がありました。



「ルスツ高原からゆとりある農業経営を目指して」

担当：本所 地域第四係

重点地域の課題

不安定な気象による生産性低下や生産費増加により農業所得は減少傾向。
労働競合、過重労働により身体的、精神的な「ゆとり」がない。

経営改善による「ゆとり」創出を目指そう！

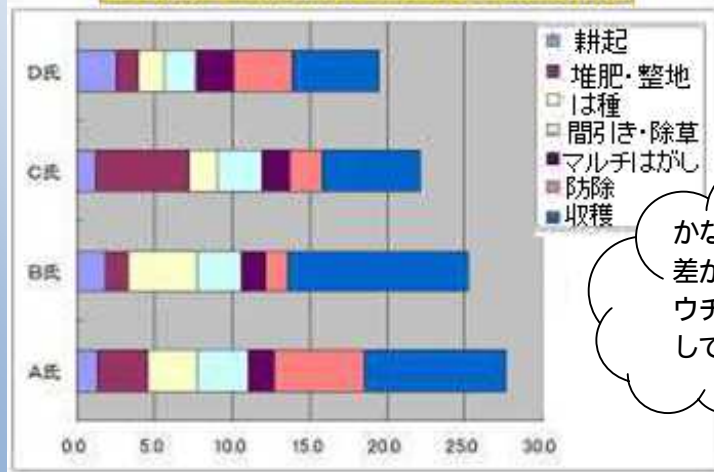
若手農業者による
現状と課題把握

よそと比べると、
ウチの農薬代は
やけに高いな…



労働実態の把握と改善方法検討

大根 1作型(20a)の労働時間



かなり労働時間に
差があるのね。
ウチも作業を見直
してみるかな。

女性農業者の栽培技術研修



真の経営パートナーになるため
に、さらなるスキルアップを！

「ゆとり目標」は、農家個々が改善項目(経営管理、作物管理、生活設計、能力向上、ほ場条件、作業体系)を決め、その改善に取り組みました。

農業改良普及センターは、その目標実現に向けて、基幹作物の安定生産とコスト低減による所得の確保や経営改善を支援しました。

さらに、農家の皆さんと農業改良普及センター職員が、毎年、「ゆとり目標」の達成状況や今後の方針について話し合いを重ねることで目標達成につながりました。

活動の成果

コスト低減・作業体系改善・収量増加等により8戸で「ゆとり」自己目標達成！

「ゆとり目標」達成のための改善項目と満足度(自己評価)

農家	経営管理	作物管理	生活設計	能力向上	ほ場条件	作業体系	家族経営 協定	ゆとり達成	H27所得 (H21比)
A	移譲準備	農薬費削減		後継者育成			検討		増
B		コスト低減		妻スキルアップ		役割見直	検討		増
D		だいこん収量UP				作業効率			維持
E	移譲準備	ゆりね収量UP		移譲準備			検討		増
F	作付見直	作物収量UP		妻スキルアップ		作業見直			増
G	経営改善			移譲準備	線虫対策				増
H	投資検討	農薬費削減		後継者育成		労働確保	検討		増
J		ばれいしょ収量UP	育児両立	移譲準備		役割分担	検討		維持

:満足 : ほぼ満足 : 取組中 : ゆとり達成

「 広域農業青年組織（ S T A F F ） に対する自主性を尊重した継続支援 」

担当：広域（ 担い手 ）

「 S T A F F （ Shiribeshi Total Agriculture Future Farmers ） 」は、後志管内の 10 青年農業者団体によって平成 10 年に発足し、各団体から選出される役員・理事が運営に当たっています。

これまでの主な活動内容は、アグリフォーラム（実績発表大会）の開催・夏の交流会・ファームステイ事業の実施等です。

平成 23 年から開催した「後志アグリフェスティバル」は、大規模な自主企画イベントとして初の取り組みでしたが、実行委員会を中心に青年自らが主体的に活動することにより、「自分たちのイベント」という意識を持ってやりきることができました。アグリフェスティバルは平成 27 年度の第 5 回開催をもって残念ながら一旦終了することになりましたが、大きな達成感や自信につながり、仲間の輪も広がりました。

STAFFは後志管内の10の4Hクラブや青年団体で構成されています



夏の交流会



ファームステイ事業



後志アグリフェスティバル



「 S T A F F 」の発足からもうすぐ 20 年が経とうとしていますが、普及センターおよび振興局は、青年の自主性を尊重した上で活動が充実し、青年同士の仲間づくりや成長の場となるように今後とも継続的に支援をしていきます。

後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1
TEL 0136-22-1072 FAX 0136-22-4744
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1
TEL 0135-22-5135 FAX 0135-22-5987
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp